

全教事務職員部ニュース

2024年10月2日
No.58

発行:全日本教職員組合事務職員部
〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-1
全国教育文化会館 3F
TEL 03-5211-0123 FAX 03-5211-0124
E-mail→jimu@educas.jp



10月に入り、ようやく朝夕秋らしさを感じるようになってきました。体調第一で無理をしすぎないようにしてくださいね。今号は、「やまぐち集会」特集でお届けします（遅くなってごめんなさい💧）。

改めて、集会へのご協力、ありがとうございました！

記念講演

「性の多様性から多様性を考える」

今田 真樹 様（山口県立下関南総合支援学校 教諭）

1 自己紹介

「体は男性でも意識していない、好きになる性は男性、心の性は今田」、大事なことは「自認する性別は、みんな少しずつ違って、外見では分からない」ということ。また、幼少期から思春期の「男の子らしいや女の子らしい」について、大きな違和感を体験してきた。

大学で性について正しく学ぶことで、悩みを解決されてきました。

2 性の多様性に関する基礎知識

自分の性も多様な性の中の1つであり、多様な性を通して多様性について知識と理解を深めることが大切であること。また、自他を大切に、1人ひとりを人間として尊重できる、すべての人達が過ごしやすい社会・家庭・職場にしていくための環境整備や対応について、実体験等を踏まえた内容でした。

3 性的少数者の悩みと対応例

性的少数者が日本には約1,000万人おり、まわりにいないではなく、言わない(知らない)だけである。性的マイノリティ(LGBTQ)の方が言えないのは、いじめや暴力、生きづらさなどからである。解決するために、過ごしやすい環境をつくること。相談(カミングアウト)を受けてもアウトティング(良かれと思って他者へ伝える)はしないこと。アウトティングによって、知られたくない人に情報が伝わることで、過ごしやすい環境でなくなる。

4 多様性に関する学校・社会のとらえ

社会に目を向けると、言い方に変化が見られるようになった。例えば、ディズニーランドでは、「レディース

&ジェントルメン」から「ハローエブリワン」と姓の呼び方からみなさんに。ハード面でもバリアフリー(多目的)トイレが増え、性だけではなく障がい者・子ども連れなどみんなが使えるトイレが普及してきている。

学校に勤務する当事者目線で変わってきたことは、トイレスリッパの色、更衣スペースの確保(カーテンやつい立てで誰もが気兼ねなく)について普及させてきた。

ニュースなどでも見られるようになってきましたが、学校の制服がスカートとズボンの選択や校則のジェンダー平等に取り組む学校が増えてきている実例を話されて、性的マイノリティとされる方々が社会に望むこととして、「カミングアウトしなくても過ごせる社会」「性による制限がない社会(部屋の賃貸・入院・ローンなど)」「婚姻の平等」も訴えていました。

記念講演をとおして、多様性とは、性だけではなく健常者と障がい者、家族・友達、様々な場面や状況について認め合う意識が大事であることを学べるものとなりました。



講座

「市民団体『学校給食の無償化を求める会』のとりくみ」

北九州学校給食の無償化をめざす会 会長 安永 武 様

福岡県では、3分の1近くの自治体で無償化に取り組んでいる。臨時交付金という一時的な予算が付いたので、給食費の全額無償化や半額補助などを行った自治体もかなりある。ただ、どうしても期限があるので、期限を過ぎると予算が付けられないという問題が出てくる。

北九州市議会で「国の予算で給食費無償化に取り組んでほしい。」という意見書が圧倒的多数で採択された。全国の給食無償化の動きや京都の岡崎さんのお話がきっかけとなり、「市民からもっと声をあげていこう!」ということで、「学校給食の無償化をめざす会」を立ち上げた。

北九州市では、米飯への金属部品の混入や水道水から錆が出る等給食に関わる問題が多く発生している。市の調査で健康上の問題はないとして予算不足を理由に何年も放置されていた。予算と人手があればこういうことにはならない。また、ある小学校では、PTAから全校保護者あてに「給食調理員さんをやってくれませんか?」とお知らせがきた。民間委託されていたが、業者が雇っている調理員全員が今期で辞めることになり、給食が提供できなくなった。何とか新しい業者も入り、手を挙げてくれた保護者の協力もあり、給食を提供できる環境は整った。だが、毎日夜の9時まで調理室に灯りがついている。元調理員によると「給食では、前日の仕込みは絶対にしてはいけないので、そんな時間にやることはないはず。」とのことだが、そこまですないと回らないくらい何か大変なことになっているらしい。もともと(給食調理員は)市の職員であったが、経費削減が優先される中で全てが民間委託になった。賃金に見合う労力ではなく、責任も大きいということで入れ替わりが激しく、技術の継承も満足に行えない。

様々な立場の方に意見をいただく中で、二つの柱で訴えをもっと広げていくことにした。学校給食の無償化、そして、安全安心な給食の提供と地産地消の促進である。

給食カフェを実施し、給食調理員さんに実際の給食と同じメニューを作ってもらって、「どんな苦労があるか?」「安全へのとりくみは?」等色々な話を聞いた。改めて子どもたちの健康を支えてくれていることを学



ぶ機会となった。他にも、運動会や入学式等、行事に合わせて学校の前で署名活動をしている。やってみると意外に反応が良くびっくりしたところもある。

もう一つ別のとりくみとして、来年の市議会議員選挙出馬予定者に「給食無償化反対ですか？賛成ですか？どんな考えをお持ちですか？」というアンケートを送っている。アンケートの回答から候補者の姿勢がすぐわかるマップ作りや無償化について公開討論会なども計画。また、「めざす会公式 LINE」を作って、チラシの送付や活動内容の宣伝をしている。財源確保のために、自分の描いたイラスト入りグッズの販売も行っている。

子どもたちに安全安心な給食を届けたい。自治体の責任で、全ての保護者の負担なく平等に届けてほしい。これが私たち「めざす会」の願いである。今日の資料にも署名用紙を入れさせていただいているが、ぜひご協力をお願いしたい。

※会場での署名へのご協力、ありがとうございました。「市民と教職員が一体となった運動という意味で、お話をさせていただく機会をいただき大変感謝しております。また、署名にもたくさんご協力いただき、ラストスパートの時期でもあり心より感謝申し上げます。」とお礼のメッセージをいただきました。

第1分科会 「学校事務職員のしごとと役割」

第1分科会では、現地参加者から3本のレポートが発表されました。経験年数や義務制・高等学校という違いはありますが、どれも子どもや教職員のために実践しているレポートであり、レポート後の討論が活発に行われました。

①「未配置校支援～沖の島を支援して11年～」(高知県教職員組合)

高知県沖の島という、県内でもかなり特別な地域(へき地手当18%)に対する事務支援の内容や、支援をしていく中で分かった問題点やその改善を組合で実現したことを中心にレポートされました。具体的には、教職員が沖の島に異動する際には「赴任旅費」が支給されますが、この手当が臨時的任用職員には支給されないことが分かり、賃金確定交渉を経て臨時的任用職員の赴任旅費を勝ち取ったことを報告されていました。この内容には参加者の多くが感銘を受け、そのあとの討論も赴任旅費や出張時の宿泊料の定額の話などで大変盛り上がりました。

②「高校事務職員のしごとと役割」(山口県高等学校教職員組合)

高校ならではの工事や公用車の契約業務、複数配置ではあるが正規職員が自分一人であるため様々な業務にかかわる苦勞など、昨年度に続いてのレポート報告に、参加者の多くが関心を寄せていました。近年は高等学校の統廃合も進んでおり、伴って遠距離通学の生徒が増えることが予想されており、経済的負担をどう軽減していくかが課題と言われていました。高等学校は各種監査(検査)も種類が多く、その業務に追われながらも、自分が事務職員として何ができるかを模索し、子どもに寄り添って奮起する力強い姿に、参加者も「学校にいる意味」をそれぞれが考え議論しあうレポートとなりました。それぞれの学校の中で事務職員ができることを実践していくことが大事だと再確認できました。

③「子どもアンケートを続けて～子どもの声をかたちに～」(島根県教職員組合)

20年近くにわたり子ども向けアンケートを実施し、予算要求や校内整備に取り組み実践のレポート報告です。整備の範囲もとても広く、トイレや部室自転車小屋の整備修繕から、ボールや一輪車の購入に至るまで、子どもから吸い上げたアンケートを活用し、まさしく子どものために学校の教育環境整備に努めてきたことがわかるレポートです。アンケートを取り、子どもたちにその結果を作成・公開し、今回のレポート報告ではそのアンケート結果や整備した写真などの掲示物も沢山持参いただき、参加者で共有する時間も設定しました。皆さん食い入るように掲示物を見ていました。この取り組みの中で予算要求を続け、予算の増額を実現したという報告もお話いただき、分科会参加者が、この後自分の学校で何ができるか、多くを学べるレポート報告でした。

3本ともにご自身の学校や地域での実践が中心のレポート構成となりました。

共同研究者の中田先生から、「如何に声を拾って予算編成などの実践につなげるか、自分がとりくみたいことが実践の継続性につながっている。手ごたえを見える化することが実践につながっていると感じた2日間でした」と言葉をいただきました。



第2分科会 「教育費無償をめざす学校でのとりくみ」

参加者:現地18名(司会・運営・共同研究者含)、オンライン6名(発言あり)。

①「中高一貫校の実情」(山口県高等学校教職員組合)

1本目のレポートから、「一貫校でも、保護者徴収金事務は、高校は県で統一ルール、中学校は学校独自ルール。教育予算(公費・私費)に対して、中学校は要望が少ない(=自腹も含)、公費で買えるものも教員が取り扱う生徒会費から執行されているケースが散見。逆に高校はよく要望が出る。」とレポーターから徴収金の詳細な資料も配布され、参加者も自校との比較など行い論議が交わされました。

●堺市では学校徴収金マニュアルで、生徒会・児童会費は徴収不可。対して生徒自治のために生徒会費を基金する学校有。ただ、教員の中には「経済的に困っている家庭は就学援助を受ければよい」として配慮を感じない発言も。また保護者はバス代高騰に関して、集金額を上げてよいという回答が多数。●埼玉高では自腹を切る意識は少ないが私費依存の傾向。●京都高では教育後援会や生徒会費が事務長決裁。保護者負担軽減について、事務長と相談したい。●香川高では県で学校徴収金運営委員会が4半期ごとに監査。進学校で語学留学の40万円が一括集金(未納無)。

共同研究者からは、「教員が私費を担当し未納を肩代わりしたり、自腹を切ったりする状態を放置したままでは、教員の『保護者負担軽減・無償化』に対する反感が生まれるのではないかと。高校は公立でも、『生徒から選ばれる学校』を目指し、公費も私費も使って学校づくり。私立高校は授業料が無償になった分、他の徴収金が増大。生徒会費は公費の中で予算化し、正当な手続きの中で厳正に執行されることを生徒たちに経験させる方が教育的効果は高い。」とのまとめがありました。

②「学校事務の総括と方針(私的)」(北海道教職員組合)

2本目のレポートからは、「教育は無償」に対し、現場で「受益者負担論」との迷いが生じたことなどを語って

いただきました。給食の無償化につながる「給食の公会計化」を焦点に、集中して討議を行いました。参加者の中で公会計化実施は2名。

●公会計化は維持費もかかり食数報告や支払いは学校。やり方によっては公会計化が無償化につながると思えない実態がある。公会計化から何を指すのか、必要な公会計化とは何か。●和歌山市では県と市が1/2ずつ負担し無償化。教職員は有償。公会計化ではなく学校会計に補助金が入り学校から支払い。学校の業務負担は残る。●根室市では3年前から無償、財源はふるさと納税。教職員は有償。学校で集金し給食協会へ支払い。

共同研究者からの質問①②を受け、①給食費以外に教材費・修学旅行費などは公会計化可能か。→京都では2024市長選で現職市長が修学旅行の無償化を打ち出し当選。保護者負担が減るのは良いが教育内容への介入や、学校ごとの公平性のため上限が設定されることなど心配。②「標準教材費」という概念は学校になじむのか。→中学校では同じ市内でも特に技術系の教材の違いが大。教師の裁量も含め金額だけでは図れないが、せめて市内中・小だけでも副教材の効果の検証を行うとよい。「標準使用教材」があり、子どもの発達に合わせ内容を変更も可能、その際標準を上回る金額を保護者負担なのか、公費化(予算増)するのかなど、対応していけるとよい。



共同研究者から、「習志野市議会が制服・副教材費の一斉調査実施(小学校制服 37,410円~46,770円(平均 41,950円)、副教材は小学1~3年で 22,093円~28,107円)。結果を受け市教委は、単に保護者負担を減らすよう学校に通知する結果に(圧力)。学校(教育)が不自由になってはいけない。必要な予算を積み上げて市教委が副教材を増額予算化の方向へ。財務経営を「子どもの権利保障」の観点から行えば、公費が増え教育環境がよくなる。教員の教材選定権の保障もしつつ、参照基準として一定のラインを設けることは必要で現場でしかできない議論。これだけあればどの子も安心して教育を受けられる、というものを→給食・制服・修学旅行などへ広げていく。卒業アルバムはどうか？ぜひ現場で進めていってほしい。」と2日間を総括。



まだまだ私たち学校事務職員が学校にいる役割は、なくなりそうにありません。今後各地の「給食費の公会計化」の実態から、「こんな公会計化は嫌だ！給食費無償化のために、こんな公会計化を目指そう！」を広く交流・研究・運動へ繋がるとよいと思います。

第3分科会 「ゆきとどいた教育をめざす地域でのとりくみ」

第3分科会では、2本のレポート報告がありました。

①「岸和田市における給食費公会計化のとりくみ」(岸和田市教職員組合事務職員部)

2022年度に岸和田市学校給食費公会計化準備会議が発足し、参加した感想や毎年行っている市教委交渉の経過についての報告です。「学校現場で困っていることを伝えること等できて良かったが、口座振替の金融機関に大阪府のメインバンクが入っていないことに気づかず、開始時期が遅れてしまった。代表として会議に出る責任の大きさを痛感した。」とのことでした。

②東京都の給食費無償化の動向と課題 学校事務職員の役割について(東京都教職員組合)

給食費無償化の動きと給食費補助制度、また、給食費の公会計化について東京都の状況についての報告です。「公会計化によって学校事務職員の負担が増えたところもある。現場の負担を軽減するためによりよい方法を考えていかなければならない。」とのことでした。

会場からは、「事務職員の負担がかえって増えているので、一概に公会計化すれば良いというものではない。」「無償化になったら事務職員の負担はどうなるのか？事務職員の仕事として無償化になったら何があるのか？無償化されたところでどんな課題があるのかとか？等、我々独自の路線を一本用意しておくことが運動している意味になってくるのではないか？」等さまざまな意見が出されました。



共同研究者からは、「お金をかけない限り誰かの負担になるので、きちんとお金をかけた上での働き方改革をすすめるべき。公の会議に参加できるのはすごく貴重な機会。無償化で終わりではないし、無償化してからもいろいろな問題が起きる中で、どうしていくかという運動を作っていけるような組織があれば、手をつなぐ方向も増えていくのかなと思った。学校のお金のことを一番よく知っている事務職員の役割が大きくなると思うし、組合だからできることがあると思う。」

「子どものために無償化をするという理念は、たぶん誰も否定できない。具体的なアイデアを伝えて、それを実現するためにはどういった情報が必要か、どういった問題があるのか？というところを共有して、そこから次のステップにつなげる。給食費の無償化ではなくて、無償給食の提供だと思う。子どもの権利保障など、どういう思想的な背景があるにしても運動として実現しなくてはいけないのは無償給食の提供である。『ゆきとどいた教育を目指す地域でのとりくみ』といったときに、とりくみを総括して新しい手を考えるのがこの場ではないかと思う。ここですべきは情報の共有とその情報に関しての実質確認ではなくて、それぞれのとりくみの成果を総合的に捉えた上で、例えば標準的な無償給食のあり方について議論をするとか、望ましい事務の体制について議論をして、事務体制の案を提示していくとかそういうことなのではないかと改めて思った。第3分科会の活動が目指すべきところは、とりくみにつながるような提案をすることではないか。真ん中に模造紙1枚置いて、論点を書き出して、それを踏まえてみんなで『こういう事務のあり方が必要だよね。』とか『これやろうとしたらこういう失敗があったよ。』というようなざっくばらんの話をしたほうが、ここにつながる議論がもっと盛り上がるのかなと思った。事例の蓄積は、ある段階でまとめをしなければいけない。分科会のあり方を変えたらどうだろう？」と来年度以降に向けた大きな宿題をいただきました。

第4分科会 「仲間とつながり、安心して働き続けるために」

①「堺市の学校事務のあり方」(堺市教職員組合)

2023年度から全市で学校間連携が始まり、2017年に市教委から提案された共同実施と任用一本化の一類型である教育事務職員制度を交渉で跳ね返した後、2018年度から学校間連携として試行開始されたことが報告されました。2023年度からの本格実施に際し、中学校区単位の「ブロック」が編成され、月1回程度の会議を行う形となりました。ブロックリーダー制度も導入され、各ブロックに主査級職員一人が指名さ

れています。

堺教組は、市教委提案に際し、任用一本化と共同実施について徹底的に学習し、その共有認識を堺市版任務論に昇華したうえで当局と話し合いました。その結果、任用一本化は棚上げされ、現在の学校間連携は極めて緩やかなとりくみとなっています。しかし、中学校区を拡大した「学校群」という枠組みが学校運営形態として始まっており、事務職員への負担増が懸念されています。組合としては、学校事務の専門性を守りつつ、父母との共同を通じて子どもを中心に据えた学校づくりを進めていく必要があると報告されました。

②「仲間とつながり、安心して働き続けるために」(舞鶴市教職員組合)

共同実施が全市で実施される一方、市教委交渉に事務職員部が単独で交渉提案を行い、以下の成果があったと報告がありました。

1. 就学援助金の保護者口座への直接振込
2. 人事情報の確実な伝達による給与事務の遅延防止
3. 公文書のメール添付による負担増加への対応
4. 共同学校事務室設置に関する責任者の明確化
5. 中学校給食の会計報告の改善
6. 教職員に対する修学旅行費用の一部公費負担の実現



また、舞鶴では一部の共同実施推進者による恣意的な運用を防ぐため、共同実施の責任者を管理職とするよう求め、実施されています。

地域交流・討論では、和歌山から小中学校で共同実施が広がり始め、京都府亀岡市では一昨年から共同実施が本格化、山口県では県下全市町村で共同実施が完全施行済、大阪府門真市・枚方市では全市単位で共同学校事務室を実施中ですが、業務負担の多さに比して報われぬ現状に若手も徒労感を感じています。東京では、定数法基準を大幅に切り込む学校事務配置形態に加え、一部で共同実施が行われているため、さらに業務がまわらなくなっている点が課題として報告されました。北九州では、段階的に共同学校事務室が設置されていますが、全教の組合員がいる区ではまだ設置されていないとのことでした。北海道では、共同学校事務室と昇任がセットでしたがなし崩しになっていますし、東神楽町で事務職員主導により共同学校事務室が廃止されました。

今後のとりくみとしては、継続的な要求と事務職員部からの専門的具体的な解決策を当局に提示し対話することが重要です。組織拡大の成果として北九州市に見られる事務職員同士のつながりを活かした組合加入の事例が共有されました。

共同研究者からは、共同実施・共同学校事務室は業務過多を生みやすいものであること、上からの指示ではなく、互いに助け合い学び合う相互尊重の学校づくりが望ましいとの視点が確認されました。教育の完全無償化を目指し、教育費の公費負担化を目指す重要性も指摘されました。

この2日間の学びを基に、参加者が現場に戻って実践することへの決意が示されました。



三原さんから退任のメッセージをいただきました。
いつも支えてくださり本当にありがとうございました！

14年半は かけがえのない財産です♡

2010年1月、全国事務研推進委員を引き受けました。初めて全教会館に行き、そうそうたる常任委員(群馬・愛知・広島の方も)やベテラン推進委員の中に、田舎のおばちゃん(のくせに、一番若輩)がちよこんと座って、話もほとんど理解できず、ましてや推進委員って何者?かもわからずスタートしました。3時間の会議にひたすら黙って座っているだけの私が、10年後に全国事務研の事務局長を引き受けることになるとは、誰も予想できなかつたと思います。推進委員は、全国集会を企画運営する専門チームで、事務職員部を率いる常任委員会と違い、1月~9月の季節労働組織です。続いて埼玉の若くてキラリとヒカるお兄ちゃんがかわり、次に兵庫から人の輪の中心的&笑いもできる姐さん加入のおかげで、常任委員会とも繋がりはじめました。寡黙な推進委員から発展する推進委員へ変わっていきました(笑)。その後も和歌山・青森の同世代の美熟



女たちも巻き込み会議後にしっかり夜まで話し込み、北海道・青森・京都の熟考系おじさまにも助けられました。京都からは若者も入り、組織の厚さも感じました。一人組織の愛媛からも、奈良の10歳下を感じさせない賢子も迎え、推進委員会は熟練度が増していきました。2018札幌集会の分科会で「教育の無償性」に出会い、翌年2月に福嶋先生を島根にお呼びし開催した組合事務研には、未組・他組の事務職員も参加がありました。近畿の仲間たちも参加して下さり、交流もできました。全国集会からさらに一步広がっていきました。

2020からは常任委員として、年間を通じて運動を話し合う中で、北九州・栃木などの加入を喜びました。山口高も繋がりを得ました。事務局長としてはしんどいことも多かつたですが、各組織の部長さんや現地実行委員の方々、全教書記のお二人に支えていただきました(事務局長さん・書記さんには無理難題を…)。共同研究者ともつながり、学校の外から刺激をいただき、運動の指針になりました。すべて私の財産です。学校事務職員人生の1/3、まさかこんな機会を得るなんて…。

島根しか知らない私は、先輩方が勝ち取った権利や状況の中に居させてもらっている幸せを知りました。文科省通知のウラを読み解くことを知りました。胸を張って正義を貫く仲間たちの背中を追いました。全国の多くの仲間を支えに、学校事務職員を続けることができました。夜な夜な愚痴も聴いてもらいました。カラオケで、厳しい攻撃を吹き飛ばすくらい発散しました。高知・京都にお呼びいただき拙い話を聴いていただきました。まだ書き足りない…キリがありません。

先輩たちが次々と退職される中で、これからは地元島根で、仲間と交流を深め、若い仲間はこの経験を渡していけるようにと思っています。来年の旭川集会の成功を期待しつつ、全国の皆様に感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。

長い間、素晴らしい経験をありがとうございました。できればたくさんの方に、外から視る経験をしてほしいと思っています。

2010~2019 推進委員・2020~2023 事務局長(員)

島根県教組 三原美由紀



<写真>2015 奈良集会・2021 オンライン集会